

- 診療科紹介 内科、総合サポートセンター移転(中面) ● ゴールデンウィークの対応、研修会のお知らせ(裏面)

病院長あいさつ



昭和大学横浜北部病院
病院長 門倉 光隆

平素から昭和大学横浜市北部病院の運営ならびに地域医療連携の推進に多大なご協力を賜り心より御礼申し上げます。2017年4月から病院長を拝命したのち3年が矢のように過ぎました。本年4月から2期目に入らせていただくことになりましたが、これまで以上のご指導ならびにご支援を賜りますようお願い申し上げます。当院は20年以上前に遡り、横浜市医療政策の一つである「市内を6ブロックに区分する医療圏配置計画」に基づく民設民営の病院誘致により、北部医療圏の急性期医療を担う中核病院として、2001年(平成13年)4月1日に開院いたしました。

19年の歳月は瞬く間に過ぎ、開院当時428床の入院病床で運用を開始しておりましたが、その後一般病床の完全開棟、こどもセンターGCUや産科マタニティハウスの増設などを加え、昭和大学附属病院の全入院病床3,185床のうち689床を担う病院となっております。この間、PET/CTの導入、外来化学療法室や女性専門外来・歯科口腔外科外来を開設し、昨年は甲状腺センターの開設とともに女性骨盤底センターも本格的に活動を再開し、甲状腺疾患に対する専門診療に加えて、女性の加齢に伴う尿漏れなどへの治療を充実させ、それまで他人に言うことのできなかつた女性特有の悩みを解消することが可能となりました。また、この春からは障害者歯科治療も積極的に取り組みを開始いたしました。

昭和大学が法人全体で進める医療者の働き方改革では、それまで存在した膨大な時間外診療による医療者の負担を軽減するため、人材確保と、変形労働時間制(いわゆるシフト勤務)を導入しました。そこで『病院全体がひとつのチーム(One Hokubu)』の考え方にに基づき、医療安全の確保ならびに患者・職務満足度の向上を目指すとともに、皆様方からの深い信頼と期待に応えられる病院でありつづけることを理念に掲げ、一丸となって邁進しております。

今後、地区医師会を中心とする医療機関との連携をさらに深め、速やかな患者さんの受入れや退院調整はもちろんのこと、患者さん一人ひとりと良好なパートナーシップを構築しながら、地域中核病院としての役割を十二分に果たしたいと考えております。

内科

最新事情



坂下 暁子 (副院長)
診療科長 教授

こんにちは、内科の坂下です。地域の先生方には日頃大変お世話になっています。

当科は、腎臓内科、神経内科、糖尿病・内分泌内科の各専門グループを中心に診療を行っていますが、2020年4月から新たに膠原病内科(常勤医3名)による診療を開始いたします。

今回は、この膠原病内科を中心にご紹介いたします。

膠原病内科のご紹介 NEW

主な対象疾患

- 関節リウマチ (悪性関節リウマチ含む)
- 膠原病疾患 (全身性エリテマトーデス、抗リン脂質抗体症候群、多発性筋炎、皮膚筋炎、強皮症、混合性結合組織病、血管炎症候群 (高安動脈炎、結節性多発動脈炎、ANCA関連血管炎、IgA血管炎など)、IgG4関連疾患、成人スティル病、シェーグレン症候群など)
- リウマチ膠原病類縁疾患 (リウマチ性多発筋痛症、ベーチェット病、乾癬性関節炎、HLA-B27関連関節炎、掌蹠膿疱症性骨関節症、偽痛風、再発性多発軟骨炎など)

スタッフ



みわ ゆうすけ
三輪 裕介 准教授

卒業：昭和大学、1996年次
専門：リウマチ膠原病全般
資格：日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、日本リウマチ学会専門医・指導医・評議員、日本リウマチ財団認定登録医、日本心身医学会代議員、日本登山医学会代議員、日本医師会認定産業医、身体障害者福祉法第15条第1項指定医 (肢体不自由の診断)、臨床研修指導医



いしい しょう
石井 翔 助教

卒業：昭和大学、2011年次
専門：リウマチ膠原病全般
資格：日本内科学会認定内科医、日本リウマチ学会専門医



にしみ しんいちろう
西見 慎一郎 助教

卒業：昭和大学、2012年次
専門：リウマチ膠原病全般
資格：日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、日本リウマチ学会専門医、臨床研修指導医

現在の内科専門グループ

腎臓内科

糸球体疾患 (腎炎、ネフローゼ症候群)、腎不全、(急性腎障害、慢性腎臓病)、電解質異常、腎代替療法 (血液透析、腹膜透析)、透析シャントトラブル

神経内科

脳血管障害、炎症性疾患 (髄膜炎、脳炎、脊髄炎など)、脱髄性疾患 (多発性硬化症、視神経脊髄炎など)、末梢神経疾患、筋疾患、変性疾患 (パーキンソン病、レビー小体型認知症など)、発作性・機能性疾患 (てんかんなど)

糖尿病・内分泌内科

糖尿病全般、甲状腺疾患 (バセドウ病や橋本病など)、下垂体疾患、副腎疾患

地域医療機関のみなさまへ

「原因が不明な場合、内科のどこのグループに紹介したら良いのか。」というご質問を受けることがあります。その場合は「内科」へご紹介ください。当科で患者さんに最適な治療ができるよう適切に振り分けいたしますのでご安心ください。今後とも、引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

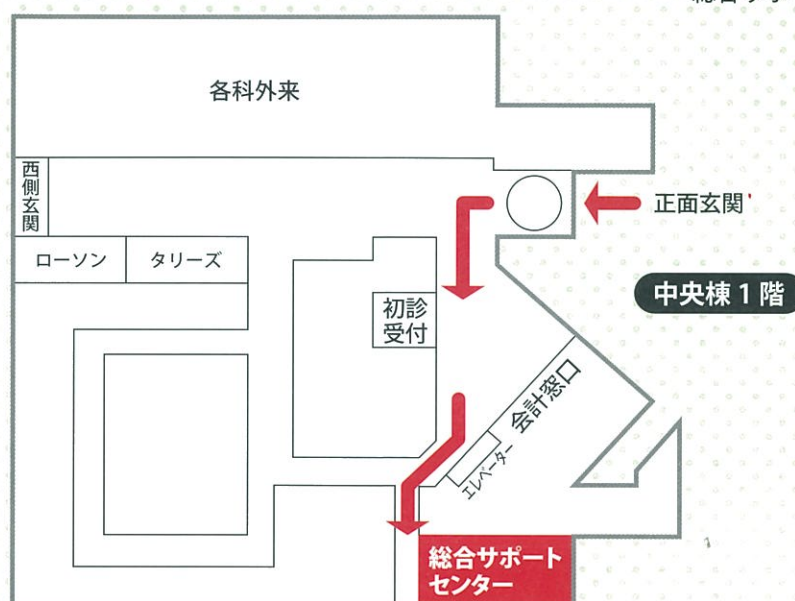
総合サポートセンターが移転しました。

総合サポートセンター長の西川です。これまで、患者さんや医療機関の皆様へさまざまな支援をさせていただいていた総合サポートセンターが、西棟から中央棟1階に移転し、3月30日(月)から運用を開始いたしました。

移転後のセンターは、場所も正面玄関に近くなり、ご相談・ご説明の機能を集中させるなど、とても利用しやすくなっています。どうぞよろしくお願い致します。



西川 徹
総合サポートセンター長



総合サポートセンターでは

医療福祉相談、退院調整、病床管理、地域医療連携といった業務を医師、看護師、ソーシャルワーカー、事務員が協力して運用しています。

①総合相談業務

専門の担当者が、患者さん・ご家族が安心して療養生活を送れるよう一緒に問題を考えていきます。

②がん相談支援業務

がんに関する治療や療養生活全般、地域の医療機関などについて相談することができます。

③入院前相談業務

入院前から患者さんが安心して医療が受けられるように面談を通じて、入院や手術の案内、入院に必要な物品の説明、服薬状況やアレルギー歴等の情報収集、患者さんが抱える疑問・不安への対応、退院調整との連携などを行います。

④退院・転院支援、調整業務

病棟の各フロアに専任の看護師またはソーシャルワーカーを配置して、病棟看護師や他職種と連携し、入院中の患者さんやご家族に対して、退院に向けた医療機関との調整や、地域のケアマネージャー、訪問看護師なども連携して、患者さんへの医療、介護が提供できるように支援します。

⑤病床管理

入院を必要とする患者さんが速やかに受け入れられるように、効率的に院内の病床を管理します。

⑥地域医療連携

地域の診療所や一般病院との連携を深め、紹介・逆紹介を進めるために、広報活動、各種イベント、医療機関訪問等を行っています。

北部病院 **ゴールデンウィーク** 対応

2020年

		休日名	診療状況	
4月	28日	火	通常診療	
	29日	水	休診	
	30日	木	通常診療	
5月	1日	金	通常診療	
	2日	土	通常診療	
	3日	日	休診	
	4日	月	みどりの日	※救急対応を原則とし、救急、初診、紹介、並びに通院中の方で状態変化による臨時再診をお受けします。 ※紹介状がない場合は選定療養費（8,800円）が別途発生いたします。
	5日	火	こどもの日	
	6日	水	振替休日	
	7日	木		通常診療

病診連携研修会等の予定（令和2年4月～）

開催日	研修会等名称	主催部署・講師
6月25日（木）	昭和大学横浜市北部病院医療連携フォーラム	昭和大学横浜市北部病院